

♪わが家のアイドル♪



若松町
三浦 丞太朗ちゃん(1歳6カ月)
笑渚ちゃん(1歳6カ月)
お腹の中からずっと仲よし♡すくすく大きくなあれ♡



喜志町
石倉 妃奈乃ちゃん(0歳)
我が家の天使です♡



西板持町
吉野 絆心ちゃん(10カ月)
元気に生まれてきてくれてありがとう♡たくましく育ってね!



山中田町
杉本 莉紬ちゃん(11カ月)
絆和ちゃん(4歳)
凜人ちゃん(7歳)
とっても可愛いりっちゃん。にーにとねーねに囲まれて大きくなあれ。

みんなの広場

宛先

584-8511
住所・氏名ふりがな・電話番号
常盤町1番1号
富田林市役所都市魅力課

わが家のアイドル(対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真に、**メッセージ(20字程度)**を添え、**住所**、保護者とお子さんの**名前(ふりがな)**、**撮影時の年齢(月齢)**、**電話番号**を記入し、

封書で上記の宛先まで応募してください。また、市ウェブサイトからもご応募いただけます(下図のQRコードから応募ページにアクセスできます)。なお、今応募された場合、掲載は約6カ月後になります。



100歳おめでとうございます!



9月10日、中筋 トミエさんが100歳の誕生日を迎えられました。長生きの秘訣は自家製なすを食べることだそうです。



9月10日、森戸 秋子さんが100歳の誕生日を迎えられました。ご家族や施設の皆さんのお祝いに笑顔とお元氣な姿を見せてくださいました。

川柳・短歌は、それぞれ別のはがきで応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限ります。作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。
令和3年1月号の「川柳」(宿題「器」)は11月30日(月)、2月号の「短歌」は12月31日(木)までに応募(いずれも必着)してください。
宛先は上記をご覧ください。

※11月号は「短歌」を掲載します(なお、応募は9月30日で締め切りました)。

- 急かされて急かされて立つ重い腰
選者 吟
藤沢台 高橋 潔
- ドア開けるマスクとマスク宅急便
児玉 暢夫
- 病院へアクセル踏めぬ救急車
高辺台 澤田 悦子
- 喜志町 須賀 林 澄子
- 舞台裏ハートが急に騒ぎ出す
高辺台 児玉 暢夫
- 世渡りに急きも慌てもない百寿
須賀 林 澄子
- 楠風台 正木 浩
- 不動ヶ丘町 佐野 節子
- 手探りの緊急治療挑む医師
高辺台 澤田 悦子
- コロナ下に俄仕込みのカタカナ語
楠風台 正木 浩

秀句
かけっこが速くなりたい靴を買う
美山台 品川 俊郎

△選評△今回もコロナの句が沢山あり、終息の兆しもなく不安な日々を過ごす中で、今月の秀句は可愛くて楽しい句を頂きました。新しい靴を履くと歩幅が広くなり、胸張ってかけっこも速くなりそうな気がします。

川柳

富柳会 山野 寿之選
今月の宿題「急」

手話を覚えよう

本市では、平成31年1月より「富田林市手話言語条例」を施行し、手話は言語であるという認識に基づき、手話への理解促進、手話の普及、啓発を進めています。

耳の聞こえる人は、日本語や英語など「音声言語」でコミュニケーションを図りますが、耳が聞こえない、聞こえにくい人の中には手話をコミュニケーション言語としている人がいます。

手話は手指や体の動き、表情などを使ってコミュニケーションを図る「見る言語」です。手話を覚えて、コミュニケーションを図り、聴覚障がいへの理解を広めていきましょう。

コミュニケーションの基本となる挨拶を手話で表現してみましょう

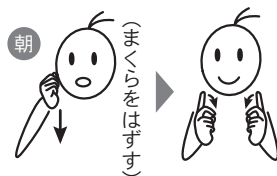
簡単な表現を覚え、挨拶をすることで、お互い親近感が湧き、相互理解につながります。

ワンポイント手話

①おはよう

「朝」＋「あいさつ」

「朝」の表現は、枕に見立てた握りこぶしを頭に付けた位置から離していきます。枕から頭が離れることで、「起きる＝朝」となります。



「あいさつ」は両手人差し指を向かい合わせにし、そのまま指を曲げます。二人がお辞儀をしている様子を表しています。

②こんにちは

「昼」＋「あいさつ」

「昼」の表現は、人差し指と中指を立てた状態で額に当てます。顔を時計に見立てて時計の短い針と長い針が昼の12時で重なる様子を表しています。



③こんばんは

「夜」＋「あいさつ」

「夜」の表現は、手のひらを前に向けた両手を顔の前で交差させていきます。日が暮れて暗くなっていく様子を表しています。



障がい福祉課（内線192）

わたしのまちの文化財

旧杉山家住宅の襖絵

旧杉山家住宅は富田林寺内町の中で最も古い町家で、昭和58年に市が敷地を買収、建物は寄贈を受け、同年12月に国の重要文化財に指定されました。その後、建物は昭和60年から3年近くかけて解体修理され、おおむね18世紀初めの姿に戻されました。

杉山家は、寺内町の創設に関わった「八人衆」の家筋と伝えられ、江戸時代中期以降は造り酒屋として栄えました。杉山家に残された古文書には、杉山家邸内で浄瑠璃や能が上演されていたことが記されています。杉山家をはじめとする富田林の酒造家を中心となつて、プロの役者らと共に自らも演じていました。

旧杉山家住宅の大床の間には、民家としては桁外れの大きな床があり、壁には松が描かれています。杉山家に伝わる話によると、この大床は能舞台を模して作られたそうです。古文書に登場する人々も、この松の前で演じたのでしょうか。

大床の間と座敷を仕切る襖には、梅に鴨、芦に雁が描かれ、座敷側には床の間、床脇と一体をなした山水が墨絵で描かれて

います。この山水画には金箔の霞がかかっていますが、長い年月を経て、落ち着いた趣があります。仏間の鳳凰の襖絵を含め、これらは同じ絵師の手によるものです。この絵師については、狩野派の絵師であろうという以外には明らかではありません。

ところで旧杉山家住宅は、与謝野 晶子・山川 登美子・玉野 花子・茅野 雅子と並び『明星』の五才媛と称された歌人、石上 露子（本名杉山 タカ）の生家でもあります。露子はいくつかのペンネームを使っていたのですが、とりわけ「夕ちどり」の名前はよく知られています。夕ちどりといえば、大床の間の襖絵のうち大床に面した6枚の襖には、波間に飛び交う千鳥の群れが躍動感をもって描かれています。この家で生まれ育った露子が「夕ちどり」と名乗ったのは、もしかすると、幼いときから慣れ親しんだこの襖絵に由来するのかもしれませんが。



文化財課（内線432）